

会費・募金へのご協力
ありがとうございました

平成 30 年度もみなさまの厚いご協力とあたたかいお気持ちを頂戴し、心より感謝いたします。
みなさまから寄せられた会費・募金は、今後も港南区の地域活動を支援していくため有効に活用してまいります。

平成 29 年度 赤い羽根共同募金・ 年末たすけあい募金のご報告



平成 29 年度の共同募金のつかいみち

18,386,982 円 (赤い羽根 14,186,810 円
年末たすけあい 4,200,172 円)

- 身近な地域の見守り・助け合い事業へ 3,000,000 円
●区内 15 地区社会福祉協議会 (ひとり暮らし高齢者の見守り訪問・サロン活動・給食会、ご近所支え合いマップ作成、地域のちいさなお困りごとへの支援など)
- 高齢 障がいのある方・子どもたちへ 7,900,172 円
●ひとり暮らし高齢者などへの配食サービス
●地域交流・居場所づくり (異世代交流活動、不登校・ひきこもり支援)
●家事・介護の支援、外出助、見守り活動など非営利活動
●子育て支援 ●障がい児者の余暇支援活動・訓練会
- 社会福祉施設の大型備品整備へ 1,810,000 円
●区内保育園 園庭大型遊具整備
●区内医療福祉センター 与薬カート購入
- 区社会福祉協議会事業へ 990,585 円
●区社協だよりの発行 ●災害見舞金の支給
●低所得者への旅費等支援費 ●ひまわりホルダーの作成 など
- 県内の福祉施設・団体へ 4,686,225 円

活用の一例



文庫あかいはねのおうち



港南福祉ホーム

港南区社協 善意銀行 (通年受付)

港南区の高齢者・障がい者をはじめとする様々な方を支援するため有効に活用しています。

(平成 29 年 11 月 2 日～平成 30 年 11 月 5 日受付分)

【善意銀行寄付金】 1,305,672 円

◎寄付者一覧 (順不同・敬称略) (平成 30 年 11 月 5 日現在)

①下永谷地区社会福祉協議会 ②神奈川フードバンクプラス ③港南区民謡民舞連合会 ④港南区クリスマスチャリティーコンサート実行委員会 ⑤横浜市女性団体連絡協議会 ⑥野庭住宅地区社会福祉協議会 ⑦明るい社会づくり運動港南区協議会 ⑧司法書士 岩屋口 智栄 ⑨上大岡ハロウィン実行委員会 ⑩日野南連合自治会 ⑪上大岡芸能友の会 会長 北見 政喜 ⑫手作りおやつ工房とさか ⑬特別養護老人ホーム野庭苑 ⑭港南区女性団体連絡協議会 ⑮株式会社 千歳観光 ⑯福祉保健研修交流センター ウィリング横浜 ⑰株式会社 清光社 ⑱株式会社 京急百貨店 ⑲港南区生活支援センター利用者 ⑳石渡 美華 ㉑港南区芸能連合会 ㉒たんぼほくらき 石上 ㉓竹上 鈴代、および匿名寄付者6名

平成 30 年度 日本赤十字社会費募集運動 (平成 30 年 5 月～)

国内外の救援活動や区内の救急法講習会の開催、地域福祉活動支援、罹災世帯への災害見舞金にあてられます。

【会費】10,668,194 円 (平成 30 年 11 月 5 日現在)

「社協だよりこうなん」の広告を募集します!

「社協だよりこうなん」は、港南区民を主な対象とした地域福祉の広報誌です。毎号 85,000 部を発行し、港南区にお住いの方に配布されるほか、港南区内にある関係施設や PR ボックス等にも置かれています。詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ・お申し込みは

社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会まで

配布先

自治会町内会、区社協会員団体、地域ケアプラザ、区役所、横浜市社協

社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会 (港南区社協ボランティアセンター)

〒233-0003 港南区港南 4-2-8 3 階 (そよかぜの家 3 階)
TEL : 045-841-0256 FAX : 045-846-4117
URL : <http://www.kounan-shakyo.jp/> E-mail : toiawase@kounan-shakyo.jp



誰もが楽しくスポーツを楽しめる地域社会であってほしい気持ちから障がい者スポーツを取りあげました。現状は厳しいと思いますが、地域でシニアの方と「グラウンドゴルフをしている」と話す本人の顔が楽しそうで良いつながりが出来ていると感じました。(K.K.)

港南区社会福祉協議会広報委員 原田 紘司 根本 雅美 林 壽美子 高橋 秀夫 中野 茂男 野間 肇 笠原 加代子 阿部 潤子

○この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています。
○港南区社会福祉協議会では、事業計画・報告並びに収支予算・決算についてホームページに掲載しております。また冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。
○「社協だよりこうなん」音声版 (テープ・CD) もボランティアグループ「港南音訳ボランティアいどんでんわ」の協力により作成しています。
ご希望の方は港南区社会福祉協議会までご連絡ください。

社協だより

KoNan

No.73
Dec.2018

ボランティアセンター通信併号

【特集①】障がいがある人もないひとも楽しめる 障がい者スポーツ

中面へ

パラリンピックも控え、港南区区内では障がい者スポーツが活発になりつつあります。

また、ウィリング横浜内に障がい者スポーツの拠点が 19 年度に開設予定です。そこで今号では障がい者スポーツの取り組みや、パラリンピックの公式種目のポッチャを紹介します。

高齢者と障がい者が 一緒にグラウンドゴルフ

シルバークラブの日野第三やまゆり会のグラウンドゴルフに、障がい者通所施設ジャンプも参加を始まりました。その時の様子を伺いました。



ジャンプの青木施設長からのお話

参加したみんなが想像以上に楽しんでいてびっくりしました。学校を卒業するとスポーツをする機会がありません。家族が連れて行くなど誰かがきっかけをつくってくれないと難しいです。

また、バザーなどの販売で地域に出ることがありますが、地域の方と一緒に何かをするということがなかなかできませんでした。どのようなかたちで地域と関わりを持てばよいか思いあぐねていました。このような機会があつてよかったです。

【特集②】ひとりをささえる仕組み 福祉ネットワーク

中面へ



社協だより こうなん 第 73 号

発行 / 社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会 ■発行責任者 / 木村 妙子 ■発行日 / 平成 30 年 12 月

特集① 障がい者スポーツ

日野第三やまゆり会はグラウンドゴルフを毎週月曜日に日野中央公園で行っています。参加者は13名程度。健康と楽しむことを目的にしています。競技を選ぶ際もみんなで楽しめるという理由でグラウンドゴルフを選びました。

日野第三やまゆり会とジャンプと一緒にグラウンドゴルフをするようになったきっかけは、区役所の紹介でした。それまでの関わりはジャンプで障がいがある方が作製し、販売を行っているパンを買いにいく程度でした。

ジャンプからは毎回、利用者5名が交替で参加しています。今は、スティックの持ち方やボールの打ち方を教えてもらっています。一緒に競技ができるようになり、より交流が深まるのが楽しみとのことでした。

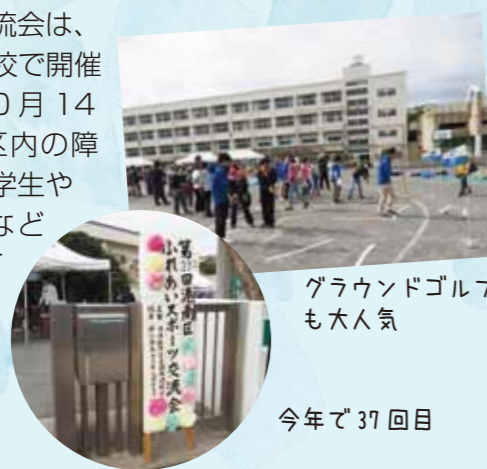


ジャンプへ取材に伺いました！写真は、日野第三やまゆり会とジャンプのメンバーと一緒に！

ふれあいスポーツ交流会 障がいがある方もない方も一緒にスポーツを楽しむイベント

ふれあいスポーツ交流会は、毎年10月に港南中学校で開催しています。今年は10月14日に開催しました。区内の障がい施設、訓練会、中学生や企業のボランティアなど400名以上が参加しています。午前には競技、午後はアトラクションを実施しました。

来年も実施予定です。ぜひご参加ください。



グラウンドゴルフも大人気

今年で37回目



ふれあいスポーツ交流会実行委員会 早坂委員長



「こころをひとつに～笑顔はんばないって～」をテーマに、参加者全員が楽しめた交流会でした。港南中学校の生徒さん・地域で活動する団体の方が、ボランティアとして関わってくださり、大きな力を頂き、この交流会が大きな輪となり広がっています。



ボッチャもやりました

競技用フリスビー（ラポール出展）

障がい者スポーツの普及啓発

障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

障がい者スポーツについて、横浜ラポール（港北区）福田さん、伊藤さんにお話を伺いました。

横浜ラポールでは、障がい者スポーツの普及啓発のために市内の小中高を訪問し、車いすバスケットボールやボッチャなど障がい者スポーツ体験会を行っています。また、地域のイベントに障がい者スポーツの体験ブースを出展することができます。



パラリンピックの公式種目になったボッチャを紹介します！

ボッチャは、子どもから大人まで、障がいがある方もない方もどなたでもできるスポーツです。また、屋内でのスポーツなので、天気は左右されることがありません。区社協で道具を貸し出しています。みなさんの地域の会議室などでやってみませんか。



やり方

- ①両選手（ペアやチーム）が6個ずつのボールを使用します
- ②先攻側が的となるジャックボール（白）を投げ、続けて1投目を行います
- ③後攻側が最初の投球を行います
- ④以降、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手がその次の投球を行います
- ⑤赤、青とも6球ずつを投げた時点で得点を計算します
- ⑥白いボールに近い側が勝ち。負けた側のボールからジャックボールまでの間にある勝った側のボールの数が点数となる



特集② ひとりをささえる仕組み 福祉ネットワーク

福祉ネットワークは、誰もが住みなれた地域において、孤立せず豊かな人間関係に囲まれながら、地域に役割を持っていきいきと生活できることを目的とした住民同士の助け合い事業です。地域住民のひとりひとりの困りごとに耳を傾け、共有や検討を行い、解決に向けて取り組むことで、お互いがつながり、寄り添う地域を目指します。本号では3つの地区の福祉ネットワークをご紹介します。

永谷地区 永谷たすけあい広場

永谷地区では当初、単位町内会ごとにたすけあい活動を行っていました。助けてほしいという人が少なく、依頼の多かった送迎活動も制度上の理由でやめることになり、活動が少なくなってきました。

そこで、活動を活性化するため、また多くの方に知ってもらうために「永谷たすけあい広場」という拠点をつくりました。拠点で受けた困りごとの相談に対して、各町内会のコーディネーターが活動者の紹介を行います。

また、月1回コーディネーター会議を開催しています。情報交換や対応が困難な内容を相談しています。



助ける人も助けられる人も、自分ができていることをゆるくやってみてもらっています。
永谷地区社協・芹が谷町内会 若林会長



町内の顔見知りが増えたのが醍醐味。挨拶をするようになったり、まわりのことを気にするようになりました。
永谷たすけあい広場 植木さん

笹下地区 ささげネットワーク

笹下地区では、約20年前に南台町内会の「となりぐみ」が最初の福祉ネットワークとして活動を始めました。その後、荒井代表が地区の全町内会に福祉ネットワークをつくらうと呼びかけました。そして、昨年度すべての町内会に福祉ネットワークができました。それぞれの連絡先が公開されており、依頼者は直接連絡します。事前登録の必要もなく、いつでもだれでも利用できるように、時間も柔軟に対応しています。

また、地区全体の連絡会を年2回行っており、情報交換を行っています。



南台町内会 原田会長

笹下ネットワーク 荒井代表

ひぎり地区 ひぎり助け合いネットワーク

ひぎり助け合いネットワークは、区内地区社会福祉協議会でいち早く活動を始め、昨年20周年を迎えました。活動開始時から活動されている、姫野顧問にコメントをいただきました。

ひぎり助け合いネットワークは20周年を迎えました。

姫野顧問



平成9年11月4日から活動を開始しました。地域の生活で、支援を必要としている方を対象に無償で活動しています。現在88名の利用者、50名のボランティアがあり、平成29年度は225件の活動を行いました。担い手の高齢化による減少、支援の範囲、活動の周知、利用者・担い手が気軽に立ち寄り相談ができる拠点の設置が課題です。

60代の方に担い手になっていただきたいです。

